

PUES
TOKYO R&D



撮影 = 齊田 勤
photos by Saida Tsutomu



東京オールアンドデー社長

岡村 了太

レーシングカーの開発を通じて培った技術力で
自動車メーカーを下支えしていきたい！

市場調査や企画からデザイン、設計、試作、評価、製造まで、自動車の開発を一貫通貫で担える
独立系の自動車開発会社

PROFILE

おかむら・りょうた

1965年千葉県出身。88年東海大学工学部卒業後、東京オールアンドデー入社。入社後は設計部門に配属。2005年企画部長、14年取締役、常務取締役車両事業本部長などを経て、17年より現職。



2016年、マレーシア企業と設立した合弁会社「東京オールアンドデー・アジア」が縁となって、翌年6月にはマハティール前首相(中央)が神奈川県厚木事業所に来社した



経営写
KEI-EISHA
No.671



東京アールアンドデーが開発した燃料電池小型トラック。平成30年度環境省委託業務において、同車両が10月から12月まで福岡市内の公道を走る。「運送会社さんが実際の配送業務で使い、実運用でしか得られない車両のデータ収集・評価を進めて今後の技術開発に活用する」と話す。出荷前に独自に開発した燃料電池ユニットの最終確認をする岡村社長



9月27日に開催された公道実証開始式典で挨拶する岡村社長。当日は来賓も数多く出席(左から、竹田清人ビジネス社長、高島宗一郎、福岡市長、岡村社長、二又茂明天神地区共同輸送社長)

車両の研究開発は先行開発と量産開発に分かれますが、 当社は約7割が先行開発です

自動車メーカーからの受託製造

「100年に一度」と言われる大変革期を迎えている自動車業界。国内外の自動車メーカーは「CASE」と呼ばれるコネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化といった先行技術の開発を進めると共に、新車から既存車種のフルモデルチェンジ、マイナーチェンジといった量産技術の開発も同時に進めていかなければなりません。

大手自動車メーカーといえども、自社内のリソースなどには限りがあります。したがって、全ての研究開発を自社で賄うことは現実的ではなく、一部を外部のリソースに頼らざるを得ないという現状があります。

そこで当社は先行技術や新車開発の一部を自動車、二輪、輸送機器メーカーから受託しています。当社は特定の自動車メーカーに属する系列会社ではないため、国内の全ての自動車メーカーから受託実績があり、欧米

やアジアといった海外自動車メーカーからも受託しています。

また、最近では「ティア1」と呼ばれる、自動車部品メーカーや素材メーカーからの、自社で開発した部品や素材を使った試作車の製造依頼も増えていきます。「動くものは何でもやる」。それが当社のモットーです。

最先端技術に強み

当社の創業は1981年。レーシングカーの研究開発に携わっていたエンジニアが集まって会社を作りました。しかし、レースだけでは事業が成り立たなかったため、自動車メーカーの量産車両のスタイリングや設計、試作のお手伝いを始めたのです。

ですから、当社は常に最先端技術や素材の研究開発に着手してきました。80年代前半から炭素繊維強化プラスチックといった先進複合材料の応用技術の開発や電気自動車の自主研究などを始め、お客様のニーズを先取

りできる技術力を蓄えてきました。

今では自動車の開発に必要な市場調査や企画からデザイン、設計、試作、評価、製造までの一貫貫体制を構築し、お客様から仕様を提供していただければ、試作車という形にするワンストップサービスを行っています。

自動車産業の黒子に徹する

。当社は決して表に出る会社ではありません。同時に、大資本と競うこともありません。技術力に磨きをかけて日本の自動車開発と自動車部品の製造を支える企業を目指していきたいと思っています。



1982年から炭素繊維を用いた複合材料応用技術の研究開発を開始した、事業担当会社の東京R&Dコンポジット工業(白岩一行社長)。同社はモータースポーツをはじめ、航空宇宙、ロボットや家具、AI作品なども手掛けた実績を持つ

独自に電気自動車のシステム開発を通じて技術を培ってきた。1984年から開発を始め、93年には市販の電動スクーターを発売。自動車メーカーやバイクメーカー以外で電動スクーターの型式認定を受けたのは国内初(写真はリチウムイオンバッテリー搭載の電動二輪試作車)



入交昭廣氏(故人)、立川洋二郎氏、小野昌朗氏の3名が1981年に創業し、今年で37周年。記念式典では激変する自動車業界を生き抜く覚悟を語った



東京内幸町にある本社での経営会議。グループ会社の社長陣と各社の状況などを確認する

